

■松原頼介 実業家。中学校同期の岸信介とほぼ同じ寿命の時代を生き、二度の高度成長に立ち会い、2度挫折した。

まつばららいすけ
八幡製鉄始・1897＝

山口県鑄銭司村で、庄屋だった松原家の弥造・クニの次男に生まれる。
鑄銭司村は名が示すように、藤原純友に襲撃されるまでの100年間、日本唯一の銭の製造所があった。

移民の多い山口県で、土地持ちの裕福な家で、とくに仕事もせずにいた学者タイプの父のもとに育ち、

日露戦争始・1904＝ 7歳：黒山尋常小学校入学、
日露戦争終・1905＝ 8歳：この年、三菱が和田岬に神戸造船所を開設、
満鉄発足・・・1906＝ 9歳：すでに神戸のトップ企業になっていた川崎造船所が、和田山通りに分工場を設けるなど、東出町は神戸の経済の中心部になってゆく。
アヲキ創刊・1908＝11歳：この年、東宮(のちの大正天皇)が来校、板倉恒介の{南原塾}にも通い、
韓国併合・・・1910＝13歳：山口中学校に進学。
ここで、岡山中学から転校してきた、のちに“昭和の妖怪”と評される岸信介と一緒にになるが、

明治天皇没・1912＝15歳：早く仕事しがたくなり、卒業を待たずに中退、以後、岸とは全く交わることは無い。

第一次大戦始1914＝17歳：岸が卒業。この年、第一次大戦がはじまると、
21ヶ条要求・1915＝18歳：この年、東出町向いの西出町に、山口春吉が移住してきて、かの{山口組}がスタート。
ロシア革命・1917＝20歳：太田恭三郎が開拓していたマニラ麻の需要沸騰したフィリピンのダバオが移民大募集したのに応じ、
本格政党内閣1918＝21歳：太田恭三郎が死去。“楽園”といわれたダバオに赴き、続いて、10歳上の兄知一もダバオに向かい、
ここで{松原組}を起業したが、第一次大戦終了とともに暴落したため、神戸に帰国、そのまま住み付く。
この頃、船成金や労働争議など、神戸のバブルを象徴した東・西出町には、山口春吉どころか、横溝正史、東山魁夷、中内功らのちに名をなす大物が住んでいたが、その東出町に居を構え、試行錯誤ののち、

原敬首相暗殺1921＝24歳：
水平社結成・1922＝25歳：知り合った船具製造業の石堂軍司と、船具品の卸売りの{合資会社松原商会}を設立、
この間に、石堂から、防水製帆についての知識を得たらしく、

護憲三派圧勝1924＝27歳：
治安維持法・1925＝28歳：本籍を山口県鑄銭司の実家から神戸の東出町に移して、
円本時代始・1926＝29歳：石堂軍司の妹菊枝と結婚。石堂軍司が亀峯丸を所有。解散し、以後、個人事業{松原商会}となる。
金融恐慌・・・1927＝30歳：長男孜が誕生。
共産党事件・1928＝31歳：石堂軍司が第二双喜丸を所有。

この間、東出町から、現在の王子動物園近くの“水道筋”に移住、
海軍軍縮条約1930＝33歳：父弥造が死去。
満州事変・・・1931＝34歳：武庫郡西青木の天上川沿いに、*防水製帆の{松原商会加工場}を設立、大豆を輸送する貨車の覆いとして大量に防水シートを必要としていた満鉄に認められ、ほぼ独占的に販売して、一気に飛躍、
五一五事件・1932＝35歳：伊勢の二見浦で“春季運動会”開催。飾磨郡荒川村土山に、石堂軍司を取締役に迎えて 帝国帆布株式会社を創業、そこで製造した帆布を加工場に運んで防水化し、{松原商会}から輸出する体制を確立、

国際連盟脱退1933＝36歳：
芥川直木賞始1935＝38歳：石堂軍司の関係で、喜福丸を建造。
二二六事件・1936＝39歳：谷崎潤一郎が「細雪」を執筆した“反高林の家近くの、灘校の南隣に、自宅{松原御殿}を建設して転居、この年の「神戸人名録」では{松原商会}は防水製帆商で、個人の所得税は群を抜いていたが、

日中戦争始・1937＝40歳：日中戦争が始まって、国内資金・資材保護の臨時の法令が出て、原材料の繊維輸入ができなくなると、
健保+総動員 1938＝41歳：早くも、次なる事業の海運を夢見て、妻のキクの名を冠した、第壱、第弐、第五、第六喜久丸を建造。「細雪」にも描かれた阪神大水害で、{松原商会加工場}にも大きな被害が出て、行き詰まり、
第二次大戦始1939＝42歳：木下鐵工所と船舶エンジン販売契約。第七喜久丸建造。自宅{松原御殿}の土地、御津町荻屋の土地を取得。
大政翼賛会・1940＝43歳：*統制めざす国策に従い、{松原商会加工場}と{帝國帆布}を、すでに業務提携していた{日出紡績}に売却。
日米開戦・・・1941＝44歳：第十一、第十二喜久丸と、次々建造し続ける。_{日出紡績}が他の三社と合併して、
・・・1942＝45歳：_{大和紡績}が発足したことから、のちの{ダイワボウ}社史にルーツの一つとして記されることになった。

創価学会検挙1943＝46歳：この年には、この間に海運をめざして建造してきた船のほとんどが、海軍に徴用されて、
年金+総武装 1944＝47歳：第七喜久丸が、セブ島で二人の船員と共に沈没するなど、哀れな最期を迎え、
敗戦・・・1945＝48歳：敗戦後に残ったのは、自宅{松原御殿}および御津町荻屋の土地と喜福丸だけであった。
新憲法公布・1946＝49歳：戦前{松原商会}に入るも解散で退職していた山本竹治が復員してくると、早速、勧誘。“青木の浜で製塩や北海道相手に水産物販売、醬油を作って九州で販売し炭灰を仕入れるなどし、

新憲法施行・1947＝50歳：GHQによる農地解放で、他人の名義になっていることが判明し、茫然自失して蟄居、以後、胃が消化できないのが持病になってしまった御津町荻屋の土地を農林省に売却、
三大事件・・・1949＝52歳：山本竹治が末妹ちとせの娘と結婚し、義甥となる。セメント瓦の製造もするが、唯一残っていた喜福丸が沈没してしまうと、全て止めてしまい、

朝鮮戦争始・1950＝53歳：母クニが死去。松原御殿の土地と家屋も最高裁に売却、青木の浜に家を建て、周辺の土地を次々買収。
独立回復・・・1951＝54歳：戦前からの墓の仲間で、前年、川崎製鉄が発足して初代社長になった西山弥太郎から、鉄鋼の未来を説かれたこともあって、山本竹治とともに、伸鉄業を始めると、折からの朝鮮特需で一気に発展、
*{大和伸鉄株式会社}を設立して社長になり、工場敷地内に独身寮と風呂、食堂を新設。

メデー事件・1952＝55歳：工場近くに社宅も建設するが、営業・仕入れ・販売すべて自らがやるワンマン経営、
テレビ放送始・1953＝56歳：長男の孜が平野貞次郎とていの娘照子と結婚。胃が悪い上喘息持ちで歩き回ることは少なくなるが、
自衛隊発足・1954＝57歳：男治大学を卒業した前川俊治が、初の大卒社員として入社。

イカサマ事件・1958＝61歳：この頃、電気炉を有する新工場の建設を決断し、尼崎の土地を確保して、
美智子妃・・・1959＝62歳：商号を{大和電機製鋼}に変更、
安保闘争・・・1960＝63歳：川崎製鉄の出資も得て関係緊密化、尼崎工場が完成し、丸棒を初出荷。
タイタイ病始・1961＝64歳：妻の姉の子で、神戸銀行にいた横田年光を入社させ、経理部長にする。鉄筋用鋼塊の自社生産開始、
全国総合計画1962＝65歳：製鋼建屋を増設、スクラップヤードを新設し、リフティングマグネットを導入。
TV宇宙中継始1963＝66歳：15トンの2号電気炉を新設、川崎製鉄から4人の出向社員を受け入れ、1号電気炉を15トンに改造。

東京カンピク 1964＝67歳：分析課を設置、
大学紛争始・1965＝68歳：川崎製鉄から技師の派遣を得、集塵装置を設置、50トン万能試験機を導入するなど、品質向上を進め、
いざなぎ景気1966＝69歳：JIS認証を取得すると、思い入れの地の住吉川の河口部青木の浜の工場跡に和風の大邸宅を建設。
美濃部都知事1967＝70歳：本社を尼崎に移す。この間も増資を続けてきたが、

震ヶ関ビル・1968＝71歳：
全共闘への 1969＝72歳：この年、八幡製鉄と富士製鉄の再合併によって新日鉄が発足し、高炉メーカー五社体制になるなど、日本の製鉄業界が頂点を迎えるなか、二度目の工場移転に打って出、
大阪万博・・・1970＝73歳：重圧もあったのか、平野貞次郎と囲碁して基盤をひっくり返す。川崎製鉄兵庫工場跡地に工場建設開始、

ドルショック・・・1971＝74歳：平野貞次郎が急死。完成に合わせて、兵庫区和田山通に本社社屋も建設した矢先、ドル・ショック、
日中国交回復1972＝75歳：公害企業と書き立てられたことにも嫌気して、社長を長男孜に譲り会長になる。二号電気炉増設して、
石油ショック1973＝76歳：売上・利益が最高になったが、オイル・ショックが追い打ちになり、
角栄金脈辞任1974＝77歳：*経営破綻、松原家保有株式をすべてを川崎製鉄に譲渡して吸収され、魚崎の川井公園南に転居。
田中角栄逮捕1976＝79歳：この年、川崎製鉄まわりの活気溢れる町の様子を描いた灰谷健次郎の「太陽の子」が出版された。
成田衝突・・・1978＝81歳：以後、姪の世話を受けながら、ひっそりと余生を送り、

中曽根内閣・1982＝85歳：妻菊枝が死去。
竹下内閣・・・1987＝90歳：全く異なる人生とはいえ同じ期間を二度生きた人物・岸信介が死去したのに続くように、
リクルート事件・1988＝91歳：没した。
松原隆一郎「頼介伝」、